2023年06月16日
（第３種郵便物認可）

中小企業診断士による
経営Q&A

中小企業の技術・技能承継

Q 業務が属人化してしまってなかなか技術・技能の承継が進みません。どうすれば属人化を防ぎ、技術・技能承継をスムーズに進めることができるでしょうか。

A 属人化という課題を後回しにしてきたツケは、顧客に向かってしまうこともあり、結果的に、会社の信用が落ちて受注減になるリスクもあります。こうしたリスク回避には、属人化した技能を数値で捉えて「技術化」することが不可欠です。まずは前提として「自社技術・技能の棚卸し」と「基礎用語の共通化と全社員の習得」に取り組むことが、技術・技能承継をスムーズに進めるためには重要です。

ポイントは、承継するのは、技能承継の方法としてはふさわしくないといえます。技能を技術化する方法や手段を構築し、その過程で「生み出された新たな暗黙知を繰り返し形式知化していく風土を自社のDNAとして承継していくことが、技術・技能承継のあるべき姿といえます。

そのためのポイントとして以下の2点を挙げます。

一つ目は、自社がどのようなスキルを持っているのかを正確に把握するために「技術・技能の棚卸し」に取り組むことです。自社の持てるスキルを客観的に分析し、スキルマップや技術のロードマップなどとしてまとめてみるといいでしょう。

二つ目は「基礎用語の共通化および全社員の習得」です。社員は少なくとも自社の製品やサービスのプロである必要があります。事業活動に必要な用語集を図や写真入りで作成し、入社2、3年目ごろから徹底的に教育することが、仕事の見える化や業務のマニュアル化につながります。さらに、共通用語の浸透により社内コミュニケーション向上も期待できます。

以上から承継すべきスキルが明確になり、それを受け継ぐ後輩たちにも必要な教育がなされていることが、スムーズな技術・技能承継を進めるために重要です。

技術・技能承継に向けた取り組みのプロセスとして「技能→技術化→新たな技能の誕生→技術化」というサイクルを回し、社員が常に考え、未知の分野に挑戦する企業風土の醸成とその定着が強い組織風土を形成していきます。自社の英知を結集して時代に即応できる企業を目指しましょう。中小企業診断士は、「技術・技能承継」に向けた支援も可能ですので、お気軽にご相談ください。

（中小企業診断士・山元証）

◇

連絡先・一般社団法人埼玉県中小企業診断協会（☎048・762・3350）

埼玉新聞　経済欄